

# 神戸市の陸産貝類 (その一)

安藤保二 鹿取秀雄

神戸付近の陸産貝類については矢倉和三郎氏(1932, 兵庫県産貝類目録, 1936—38, 兵庫県博物館学会誌, 日本産陸産貝類綱要等)、古川博二氏(1943, 神戸市陸産貝類目録)、東正雄氏(1953)、兵庫生物、西宮の陸産貝類)等によつて報告されて来た。近年に至つて鈴木章司氏等によつて詳細な研究がなされつゝあるが、筆者等は須磨高校生物部員と共に昭和27年来須磨区を中心として陸貝の採集に努力を続け、こゝに一応の結果をまとめて見ることにした。もとより馳け出しの素人である故前記諸先輩の業績に比して不完全であることは言うまでもないが、今後の研究によつてより完全なものとなつてほしいと考えている。この報告を作るに当つて標本の同定、文献閲覧、その他色々御教示戴いた、黒田徳米博士、波部忠重博士、古川博二氏、東正雄氏、鈴木章司氏に深甚な感謝を捧げる。

(文献) なるべく原記載に当るように努力したが、この出所について黒田博士の未発表の原稿によるものである故、今回は差控えて、国内で発行された書物の内、図のある物に限つた。その書名および略号は下の通りである。

1. 1907—9、介類雑誌、日本陸産貝類図説、平瀬与一郎、略号(介雑)
2. 1928、ビーナス、1巻4号、夏の貝類採集、滝庸、略号(ビーナス1—4)
3. 1931、ビーナス、3巻1号、丹後大島及び小島の貝類について、丹信実、略号(ビーナス3—1)
4. 1931、地球15巻2号、奈良春日山の貝類、黒田徳米、略号(地球15—2)
5. 1934、日本貝類図譜、平瀬信太郎(1951、同改訂版、平瀬、滝庸、略号(平瀬図))
6. 1936—1938、兵庫県博物館誌、12号—16号、日本産陸産貝類綱要、矢倉甫田、略号(兵博)
7. 1947、日本動物図鑑、平瀬信太郎、黒田徳米、略号(動図)
8. 1949、かたつむり、黒田徳米、波部忠重
9. 1951、日本貝類図録、波部忠重、No. 16、略号(図録)
10. 1953、日本陸産貝類目録、黒田徳米、略号(目録)
11. 1954、原色日本貝類図鑑、吉良哲明、略号(吉良図)

12. 1954、貝類とその生活、波部忠重、略号(生活)
13. 1956、山口県貝類目録、河本、田辺、略号(山口貝)
14. 1957、日本の貝、波部忠重、略号(日貝)

(産地) 神戸市に至る所、陸産貝類の棲息に適し、種類によつてはその全部を上げることが不可能なものがある故地域的に50箇所を選びその番号で記した。また前記諸氏の産地でも筆者等の採集していないものは省き、現在標本のあるものだけ記した故今後追加すべきものも多い。

- 垂水区 1、広野。2、近江。3、木見。4、太山寺。5、布施畑。6、奥畑。7、中山。8、垂水町。9、塩屋町。10、下畑。須磨区 11、須磨浦公園。12、鉄揚山。13、潮見台町。14、高倉町。15、妙見谷。16、須磨寺。17、天神町。18、行幸町。19、桜木町。20、山畑町。21、月見山町。22、大手町。23、細沢町。24、板宿町。25、天井川。26、妙法寺川。27、多井畑。28、妙法寺。29、車。30、白川。長田区 31、長田。兵庫区 32、夢野山。33、平野。34、烏原。35、鴨越(菊水山を含む。) 36、小部。37、藍那。38、箕谷。39、谷上(大池を含む。) 40、唐櫃。41、有馬。42、五社。43、丹生山。生田区 44、再度山。葦合区 45、布引。灘区 46、摩耶山。47、一王山。48、六甲八幡。東灘区 49、御影。50、岡本。

(測定値) 多数の標本のあるものは、なるべくよく発達し、代表的形のものを選んで、カリパーズで測定した。また著しく異つた型のあるものは、その二型について記した。

(備考) 記載については各文献に譲つて、筆者の私見を述べたが、当を得ないものについては読者の叱正によつて訂正したい。

1. *Georissa japonica* Pilsbry 1900 ゴマオカタニシ Fig. 1

(図録、平瀬図、介雑、日貝。)(34, 38, 39, 43.)  
(長さ2.2mm、直径1.6mm箕谷)

2. *Waldemaria japonica* (A. Adams) 1861 ヤマキサゴ Fig. 2

(介雑、ビーナスI—4、動図、平瀬図、兵博、日貝。)  
(長さ7.8mm直径11.0mm丹生山)(36, 39, 40, 41.)

(備考) 模式的なヤマキサゴには著しい肋があるが、この地方のものは肋は殆どなく、光沢のある殻皮にお

おわれヌリツヤマキサゴ型である。

3. *Japonia sadoensis* Pilsbry et Hirase サドヤマトガイ Fig. 3

(目録、介雑)。(長さ4.5mm直径4.7mm 小部)(536, 43.)

4. *Cyclophorus herklotsi* Martens 1861 ヤマトニシ Fig. 4

(介雑、動図、平瀬図、吉良図、山口貝、兵博、日貝)。(長さ18.6mm、直径20.0mm 布引)(4, 36, 43, 45.)

5. *Cyclotus campanulatus* Martens 1865 アツブタガイ、(コヤマトニシ) Fig. 5

(介雑、動図、ビーナスI-4、平瀬図、吉良図、山口貝、兵博、日貝)。(長さ11.5mm、直径16.1mm 白川)(4, 5, 16, 30, 31, 31, 36, 37, 38, 40, 43, 45, 50等)

(備考) 螺塔はヤマトニシより低く、ヤマクルマより高い。繫は石灰質で厚い。

6. *Cyathopoma* (*Nakadaella*) *micron* (Pilsbry) ミジンヤマトニシ Fig. 6

(兵博、ビーナスI-4、動図、平瀬図)。(長さ1.0mm、直径1.5mm 布施畑)(5, 6, 28, 29, 32, 41, 49, 50等)

(備考) 大きさの点でミジンマイマイ、ヒメコハクと間違い易いが石灰質の繫をもち、口は丸いので見分けられる。

7. *Pupinella* (*Pupinopsis*) *rufa* (Sowerby) 1864 アズキガイ Fig. 7

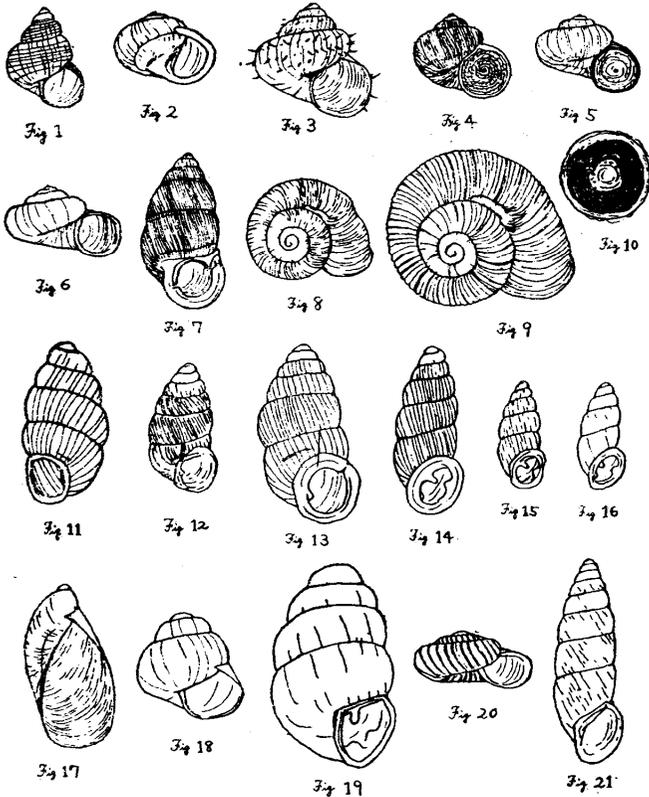
(介雑、ビーナスI-4 動図、平瀬図、吉良図、兵博、日貝)。(長さ10.4mm 直径4.5mm、(長さ9.6mm 直径4.8mm 禅昌寺) (14, 22, 32, 45, 48, 49, 50等) (備考) 極めて多量に産する貝である。幼貝はキビガイ類と間違い易い。細長形と太短型とあるが、雌雄異型ではないかと思う。

8. *Chamalycaeus pilsbryi* (Kobelt) 1902 ビルスプリムシオイ Fig. 8

(長さ2.6mm 直径3.8mm、長さ1.8mm 直径3.5mm 山畑町)(5, 6, 14, 16, 20, 22, 32, 34, 44, 45.)

(備考) Pilsbry (1900 Proc. Ac. Nat. Sci. Phila 52 P. 381) によればハリマムシオイとビルスプリムシオイとの違いは下の表の通りである。

## 神戸市の陸産貝類 Pl. 1



	終層の収縮部	縦脈	高さ	径	臍:体層
ハリマムシオイ	中庸	収縮部平滑	2.6mm	75mm	1:3½
ビルスプリムシオイ	殆どなし	口まであり	1.7mm	3.5mm	1:3.5

また矢倉氏(1936、兵博誌12号P. 6)によれば、「口唇はハリマムシオイは2重で、ビルスプリムシオイは1重である」。上の記載中縦脈について見ると、

すべてビルスプリムシオイに相当し、その他の点に関しては個体変異が著しく区別出来ない。全くハリマムシオイと考えられるものは見当たらない。

9. *Chamalycaeus hirasei* (Pilsbry) 1900 ミヤコムシオイ Fig. 9, Fig. 10  
(介雑、ビーナス I-4、平瀬図、吉良図) (長さ2.7mm 直径4.0mm 小部) (36, 43)  
(備考) 前種との違いは、1. 繫に縄状のコイルをつけ、中心は穴のように見える。2. 大型で4mmの直径をもつ。3. 臍が広い。4. 体層の螺管が太い。5. くびれが僅かである。Fig. 10 は繫
10. *Palaina* (*Cylindropalaina*) *pusilla* (Martens) ヒダリマキゴマガイ Fig. 11  
(介雑、兵博、平瀬図、動図) (長さ1.8mm 直径0.8mm 妙法寺) (5, 28, 29, 30, 32, 36, 41, 45, 49, 50等)
11. *Diplommatina* (*Sinica*) *collarifera tenuiplica* Pilsbry 1900 オオウエゴマガイ Fig. 12  
(5, 43, 46, 50, 39.) (長さ4.0mm 直径2.2mm 保久良神社)  
(備考) 矢倉氏 (1936、兵博誌12号 P. 7) によると「ゴマガイよりやや大形で、殻口拡大して体層に達し、反曲後方にバリツクスがある」。ルネラとブリカは接触している点はイブキゴマガイ等と区別出来る。Pilsbry (1900. P. A. N. S. P. 51, P. 525) によると赤褐色ブリカが弱く細いと言う。
12. *Diplommatina* (*Sinica*) *cassa* Pilsbry 1902 ゴマガイ Fig. 13  
(平瀬図、動図、山口貝、兵博) (5, 41, 43, 45i, 46, 39.) (長さ3.0mm、直径1.4mm 布引)  
(備考) コベルトゴマガイ (*D. nipponensis kobelti* Pils.) は、ゴマガイとほぼ同大であるが、Pilsbyによると (1901, *Nautilus* (15) P. 23) 細く、彫刻細く、終りの2層は同大のものであるが、これに相当するものは当域から得ていない。
13. *Carychium noduliferum* Reinhardt 1877 スジケシガイ Fig. 14  
(平瀬図) (43, 46) (長さ2.3mm、直径0.7mm 丹生山)
14. *Carychium pessimum* Pilsbry 1902 ケシガイ Fig. 15  
(平瀬図) (43) (長さ2.0mm、直径0.7mm 丹生山)
15. *Carychium nipponensis* Pilsbry et Hirase 1904 ニホンケシガイ Fig. 16  
(36) (長さ1.7mm、直径0.5mm 小部)  
(備考) 神戸付近ケシガイ類検索表  
I) 表面平滑で光沢あり ニホンケシガイ  
II) 表面に顕微鏡的細脈あり  
a 太短形、軸板弱い ケシガイ  
b 細長形、軸板著し スジケシガイ
16. *Succinea hirasei* Pilsbry 1901 ナガオカモノアラガイ Fig. 17  
(動図、平瀬図) (8, 25, 26, 31) (長さ14.0mm 直径8.0mm 天井川)  
(備考) 関西地方のものは関東地区のものに比して螺塔小さく、体層更に長く、軸層に白色滑層があるため、カンサイオカモノアラガイ (*S. kwansae* Okazaki 1921) と呼ばれたが、小山千万喜氏 (1955 ビーナス vol. 18, No. 4, P. 263) 波部忠重氏 (1956, ビーナス Vol. 19, No. 2, P. 102) によつて染色体数、殻形共に区別の要なしとして合併された。
17. *Pupisoma orcula* (Benson) 1850 マルナタネ Fig. 18  
(介雑、兵博) (49) (長さ1.0mm 直径1.0mm 御影)  
(備考) 平瀬氏 (1909、介雑3巻3号、P. 84, Pl. 9, fig. 30, 31) によるとヒラドマルナタネに似るが臍孔狭く、縦脈あり、やや大型であると言う。
18. *Vertigo hirasei* Pilsbry, 1901 キバサナギガイ Fig. 19  
(平瀬図、兵博) (32.) (長さ1.8mm、直径1.0mm、夢野山)  
(備考) Pilsbry氏によると (1901, *Nautilus* 14—P. 128) ヤマトキバサナギ (*V. japonica*) に似るが、キバサナギの方が歯が大きいのと言う。またナタネキバサナギ (*V. eogea*) は黒田氏 (動図、P. 1055, fig. 2986) によると歯は外唇2、内唇2、軸唇1、底唇1で多い。本種はキバサナギより長型で、歯の形は少し違う。
19. *Vallonia tenera* (Reinhardt) ミジンマイマイ Fig. 20  
(動図) (8, 17, 23, 49等) (長さ0.6mm、直径19mm 垂水)  
(備考) 微小種で市街地に多い。通常コハクガイ、オカチヨウジガイと共に採集される。
20. *Ena reiniana* (Kobelt) 1875 キセルモドキ Fig. 21  
(ビーナス I-4、動図、平瀬図、吉良図、日貝) (39, 43, 45.) (長さ27.8mm 直径18.0mm 布引)  
(備考) 矢倉氏 (1932、兵庫目録 No. 717) によると、ナガキセルモドキ (*E. reiniana extorris*) は黒田博士 (1953、目録、P. 18) によつてキセルモドキの同義語とされた。キセルガイに似るが、右巻である。
21. *Hemiphaedusa* (*Pinguiphaedusa*) *pinguis platydera* (Martens) 1876、ツムガタギセル Fig. 22  
(動図、平瀬図、地球 15-2、兵博) (22, 24, 35, 48, 49.) (長さ25.5mm 直径5.5mm、長さ24.2mm、

直径5.1mm大手町)

(備考) 中形、紡錘形、表面には微彫刻がある殻形には変化多く、上記の測定値は太い型と細い形とを示す。ナミギセルとは殻形の外、ラメラの内次板が弱いこと、ルネラがあることで容易に見分けられる。

22. *Hemiphaedusa* (*Pinguiphaedusa*) *awajiensis* *pigra* (Pilsbry) 1902, チビギセル Fig. 23 (24, 39, 40, 41, 43.) (長さ14.1mm、直径3.6mm唐櫃)

(備考) 小型で螺層ふくれ、縫合は深い。

23. *Tyrannophaedusa* (*Nesiophaedusa*) *bilabrata* (Smith) シリオレギセル Fig. 24 (動図、平瀬図、地球15-2、兵博、山口貝) (4, 8, 10, 16, 22, 28, 31, 39, 41, 43, 49等) (長さ24.0mm、直径5.3mm 13½階 奥妙法寺)(長さ20.0

mm、直径5.5mm 7階奥妙法寺)

(備考) 中形、階数の多いキセルガイであるが名の通り7-8階を残して頂部脱落していることが多い。殻口は洋梨形で下軸板の両側に多数のしわが見られるが、その数は一定していない。

24. *Tyrannophaedusa* (s.s) *aurantiaca* (Boettger) ウスベニギセル Fig. 25 (動図、平瀬図、兵博) (4, 5, 16, 28, 43, 45.) (長さ14.0mm、直径3.2mm布施畑)

(備考) 小型のキセルガイで帯紅褐色、中央よくふくれるがチビギセル程縫合は深くない。

25. *Tyrannophaedusa* (*Ventriphaedusa*) *probacaryostoma* (Moellendorff) 1882 ナラビヒダギセル(カリストギセル) Fig. 26 (平瀬図、兵博) (4, 5, 29, 30, 37, 38, 40, 41,

42.) (長さ 16.9mm、直径3.8mm、車)

(備考) 小形、螺層やふくれ細い美彫刻がある。殻口は簡単で、次板、下輔板共にない。

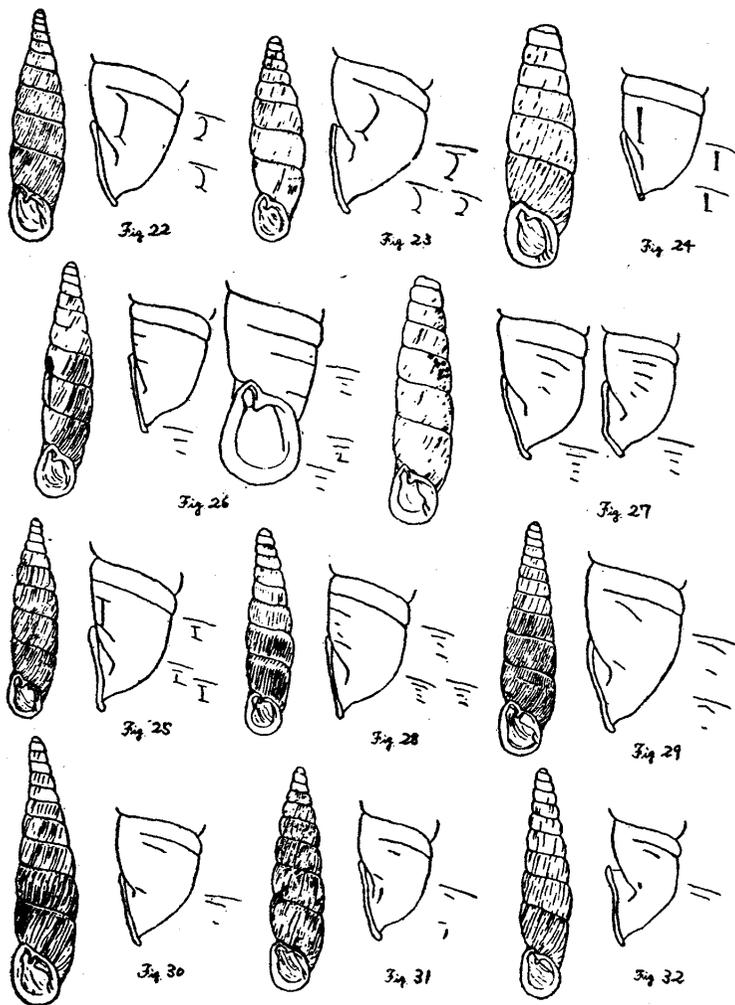
26. *Mundiphaedusa* (s.s.) *decapitata* (Pilsbry) シリオレトノサマガセル(クビキレシカギセル) Fig. 27

(兵博) (5, 6, 30, 39, 40, 41, 43, 46.) (長さ26.3mm、直径6.6mm唐櫃)

(備考) 中形、堅固で殻頂脱落し殻頂丸い。シリオレギセルに似るが螺層は直線的で、縫合は極めて浅い。また殻口は梨形でなく、下唇下軸板両側に隆起はない。ブリカは見難いが磨いて見るときは数が多いため明瞭に区別出来る。

27. *Mundiphaedusa* (*Aulacophaedusa*) *gracilispira* (Moellendorff) 1882、ホソヒメギセル Fig. 28(4, 28, 29, 31, 43.) (長さ9.8mm、直径2.0mm、太山寺)

## 神戸市の陸産貝類 Pl 2



(備考) 微小なキセルガイで螺層はやゝふくれ表面に微細で鋭い彫刻がある。主ブリカより上半はふくれ、殻口の上部は凸出している。模式産地は神戸である。

28. *Stereophaedusa japonica* (Crosse) 1871 ナミギセル Fig. 29

(動図、ビーナス3-1、1-4、平瀬図、吉良図、地球、15-2、兵博、日貝)。(2, 4, 5, 13, 22, 28, 30, 31, 36, 41, 43, 45等) (長さ33.0mm直径7.8mm布引) (長さ24.5mm直径6.0mm御影)

(備考) 本地方としては最も大型種で螺層よくふくれ、殻口薄板はよく発達している。シロナミギセル (*S. japonica kobensis* Smith) は大型で、螺層ふくれ淡色のものを言うが、模式産地の神戸においても上記のように、大小があり、色も濃淡様々で典型的シロナミギセルは分離し難い。

29. *Stereophaedusa japonica pallens* (Moellendorff) アワシウツミギセル Fig. 30

(8, 22, 24, 33.) (長さ23.5mm直径5.5mm垂水)

(備考) アワシウツミギセルはPilsbryによると(1902 Pr. Ac. Nat. Sci. Phil., 54 P. 52) イトカケギセル (*C. goniopoma*) の条の細いものに名付けられたもので、イトカケギセルはウツミギセル (*C. oostoma*) に比較された。現在はナミギセルの変種とされているが、ほとんど両者の中間的な大きさ、彫刻をもつもの(例えば、御影のナミギセル)もある。一応ナミギセルより殻薄く、小型で螺層のふくらみ少く彫刻密なる

ものを言う。閉べんについては精査していないが変化に富むようである。

30. *Phaedusa* (*Euphaedusa*) *tau* (Boettger) 1877 ナミコギセル Fig. 31

(動図、平瀬図、地球 15-2)、(32, 43, 50.) (長さ12.6mm、直径2.8、岡本)

(備考) 貝殻薄く小型で淡褐色、微細な彫刻のあるキセルガイで殻には殆ど薄板はない。(Pilsbry 1900, Pr. Ac. Nat. Sci. Phil. 52-P. 528) (Pl. XXVIII fig. 43~45) によるとルネラとパラタルブリカとでギリシヤ文字のタウの形を作るとあるが、本標本ではルネラはほとんど見られない。その他の点では一致している。

31. *Phaedusa* (*Euphaedusa*) *digonoptyx comes* (Pilsbry) 1900 ヒメコギセル(コモコギセル) Fig. 32

(兵博) (3, 28, 29.) (長さ12.0mm、直径2.5mm車)

(備考) 殻は薄質で小形、螺層に微肩角あり、彫刻微細で殻表に光沢がある。Pilsbry (1900, Pr. Ac. Nat. Sci. Phil., 52, P. 673, 674) によるとナミコギセルよりも小さく、上のパラタルブリカ短く、ルネラは弱いと言う。

次に神戸付近で採集出来るキセルガイについて、ラメラ、ブリカを主として観察の要点を表に記して見た。

	彫刻、螺層	大きさ	ラメラ			ブリカ		
			上板	次板	下軸板	主ブリカ	パラタルブリカ	ルネラ
ツムガタキセル	微彫刻紡錘型	著し、中	著しい	あり	あり	長い	1本	逆倒J
チビギセル	各層ふくれる	小	あり	/	/	長い	1本(短い)	J字
シリオレギセル	頂部欠損	中	著しい	弱い	強い	やゝ長い	1本?	逆J字
ウスベニギセル	中央ふくれる	小	螺旋状	あり	明らかにあり	極長い	2本	エ状字
ナラビヒダギセル	やゝふくれる	小	著しい	/	/	極長い	2本	/
シリオレットノサマギセル	頂部欠損棒状	中	著しい	弱い	あり	長い	4又は3	/
ホソヒメギセル	細長い鋭い彫刻	極小	小さい	/	/	長い	4又は3	/
ナミギセル	細彫刻	大	著しい	著しい	著しい	やゝ長い	2本	/
アワシウツミギセル	彫刻密	中	著しい	著しい	著しい	やゝ長い	2本	/
ナミコギセル	微彫刻	小	弱い	弱い	あり	長い	2本(弱い)	J型
ヒメコギセル	やゝ粗い彫刻	小	弱い	弱い	/	長い	2本	/

上記の他にエルベリギセル (*T. aurantiaca erberi* (Boettger)) があると思うが、筆者の採集したものは記載と完全に一致しない故省いた。またハゲギセル

(*H. attrita*(Boettger))も本地方産の標本が手許にな

いたため割愛した。未完